

「死」を約束された存在  
私も60代の後半になった。

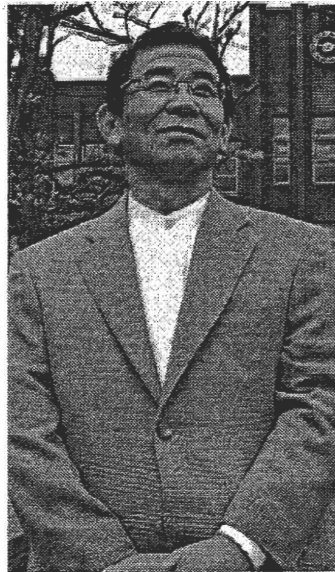
還暦を迎えるころに、それまで繁く受けていた人間ドックやら血液検査などを一切断つことにした。私はヘビースモーカーである。勧められて年一回のCTスキャンによる肺がん検診まで受けていた。毎回のように胃や腸の精密検査の要ありと告げられ、一度は肺の苦しい生検を余儀なくされた。結果が出るまでは半病人のごとくであった。

加齢とともに肉体は確実に老いていく。検査をつづければ精密検査や生検に送られる頻度が高まっていくのは避けられない。その度ごとに不安におのかされていたのではなんのためかと思いはじめ、以降、検査とは縁を切り、痛い苦しい時以外は病院には近づきまいと臍を固めた。

人間は死を絶対的に約束された存在である。還暦あたりまで健康な生を授かった以上、その後は自然生命体の「則」に素直に従って生きていくことを考えたのである。67

# 「死はお迎え」の死生観を思う

## 論 正



拓殖大学学長  
渡辺 利夫

歳の現在までさしたる病いに襲われることもなく打ち過ごしている。年相応に皮膚は弛み、顔にしみが浮き出て老化の兆しは歴然である。内臓だって同じような老化が発生しているにちがいない。薄くな

った髪やぼれ落ちた歯をもとにもどすことができないのと同様、老化した内臓を元気にする医療などあるはずがない。

情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。

い。情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。情報公開もままならぬ怪しい。

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

「死はお迎え」の死生観を思う

## 「健康」「長寿」は本当に幸福か

健康や長寿は、これをいくら追い求めても切りというものが無い。われわれが生老病死というライフサイクルの中で生きざるをえない以上、健康や長寿を追求すればするほどこの観念に呪縛されて、授けられた生をまっとうできなくなるという背理を強めてしまつて私には恐ろしい。生活習慣病とかメタボリック・シンドロームといった用語法の中に、日本人が追い求めて作り出された現在の医療界の危うい観念が透けて見える。人生は「お勤め」「死はお迎え」という日本人の伝統的死生観からわれわれははるけくも遠くにまでできてしまったのである。

(わたなべ としお)